



うれしくなるおにぎり

富岡市立額部小学校 5年 大井田 佳豊

ぼくは、白いごはんが好きです。ごはんは色々な料理が作れますが、ぼくが一番好きなのは、お母さんが作ってくれるおにぎりです。

今年の夏休みは、お母さんが毎日、お弁当におにぎりを作ってくれます。

お母さんは、早起きして毎日ぼくのお弁当を作っています。夏休みの間は、家族三人分のお弁当を作ってくれました。お弁当は、夏休みの間だけです。

「なんで、お父さんのはおいしそうなお弁当なのに、ぼくの夏休みのお弁当はおにぎりなんだろう。毎日同じだとあきてしまうよ。」とっていました。

夏休みのおにぎりのお弁当が始まって一日目、二日目、三日目、四日目、五日目…。

「あれっ？毎日おにぎりを食べているのに、あきないなあ。おにぎりおいしい!」

いつの間にか、毎日のお昼ごはんが楽しみになっていました。ぼくは、さみしくて心細い時もありましたが、このおにぎりを食べると、お母さんのことを思い出して元気になりました。おにぎりには、不思議なパワーがあると感じました。なので、ぼくも自分で作って食べてみました。

「おいしい。でも…お母さんが作ってくれるおにぎりの方がずっとおいしいなあ。何がちがうのかなあ。」

お母さんが毎日作ってくれているすがたを思いうかべながら、考えて考えてみたら、お母さんのおにぎりにあってぼくのおにぎりにはないものが一つだけありました。それは、愛情でした。

お母さんは、朝早く起きてたきたての熱いごはんをやけどしそうになりながらも、ぼくのためにがんばってにぎってくれました。それに、ぼくたちがあきないように、毎日ちがったおにぎりを作ってくれていたのです。仕事や家事で大変なのに、ぼくのことを思って愛情をたっぷりこめてくれていたのです。

ぼくは、そんなお母さんのために感謝の気持ちをこめておにぎりを作りました。

お母さんが喜んでくれるすがたを思いうかべながら、心をこめてにぎりしました。すると、たきたての熱いごはんもがんばってにぎれました。具のない真っ白なおにぎりができました。お母さんに食べてもらいました。お母さんはゆっくり味わいながら、「今まで食べた中で一番おいしいよ。」と、言ってくれました。ぼくは、とてもうれしくなりました。